

経営者自らが「2030年の経営ビジョン」を語れるためには

それは、「御社の将来（2030年）のありたい姿、成長エンジン、経営戦略」の結集であり、下記のどれか一つでも一段上のレベル（視座）に立つことが肝要です。

- ◆強い想い：「社会価値（社会に役立つ）×経済価値（利益を創出できる）」
- ◆改革対応：「働き方生産性改革（MI）×価値創造改革（VI）×デジタル改革（AI）」
- ◆戦略対応：「CSR（守り）→CSV（攻め）→SDGs（ゴール）× ESG（プロセス）」

その中のどれかを迅速に検討され、行動に落とし込むことで、

⇒ 経営者自らが、『2030年のSDGs経営ビジョン』

を社会に、社員に、関係者に語る（＝宣言）ができるようになります。

何よりも、この「経営者の変化（シフト）」をSDGsは強く求めているのです。

つまり、SDGsが「わかる」→「かわる」→「できる」の道筋です。

しかし、いきなり「かわる」「できる」に到達できないのが通常です。

SDGsの「勉強会」「講演」「ワークショップ」「導入プロジェクト」等、ここでは、皆さまの状況やご要望に応じて体系的に「SDGsプログラム」をご用意しています。

★新価値創造研究所は、入り口から出口まで、企業経営者の様々な課題に対応いたします。